



宇宙スキル標準 活用事例集

令和8年2月27日

本資料の位置づけ・記載内容について

位置づけ

- 本資料は、宇宙スキル標準の実務的な活用方法を示すことを目的とした、機関・企業における具体的な取組事例を紹介する資料である。

記載内容

① 各事例上部 灰色の枠

- 企業概要
- 取組みの概要
- 宇宙スキル標準活用の目的・期待する施策の効果 等

② 各事例中央 フリースペース

- スキル標準をどのように組み込んでいるか／予定か（詳細）
- 宇宙スキル標準活用の目的・期待する施策の効果（詳細）
- スキル標準を「どのように組み込んだのか」のプロセスや方法がわかる図式や説明文
- 具体的にどのように宇宙スキル標準を組み込んだか、活用における工夫やプロセス（詳細）
- 宇宙スキル標準活用における課題や難しさ（詳細）
- 今後の取組みの展望（詳細） 等

※資料内の図表等の著作物・商標等は各企業・組織に帰属します

目次

	ページ数
1 採用における活用事例	
株式会社インバイトユー「宇宙人材エージェント」	5
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	8
株式会社ポテンシャルライト/ソラシゴト	9
2 教育における活用事例	
学校法人有坂中央学園/専門学校中央情報大学校	12
一般社団法人宇宙産業機構	14
大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC)	16
福島県商工労働部産業人材育成課	18
文部科学省宇宙開発利用課	20
株式会社レヴィ	21
LSAS Tec株式会社	23
Space BD株式会社	25
3 人事・配置における活用事例	
スカパーJSAT株式会社	28

1. 採用における活用事例

株式会社インバイトユー「宇宙人材エージェント」(1/3)



■ 企業概要

- ロケット・衛星・宇宙ベンチャーの採用支援を強みとする宇宙業界専門の人材紹介会社
- 宇宙スキル標準ステアリング委員会参加

■ 取組み【事業フェーズ先読み × 採用ターゲット形成】の概要

- ①宇宙ベンチャーは事業フェーズにより必要スキルが大きく変化 ⇒ ②宇宙スキル標準を基に、事業フェーズ別の必要スキルを体系化 ⇒ ③企業の成長段階を先読みし、採用ターゲットを事前に確保する仕組みを構築

■ 宇宙スキル標準活用の目的・期待効果

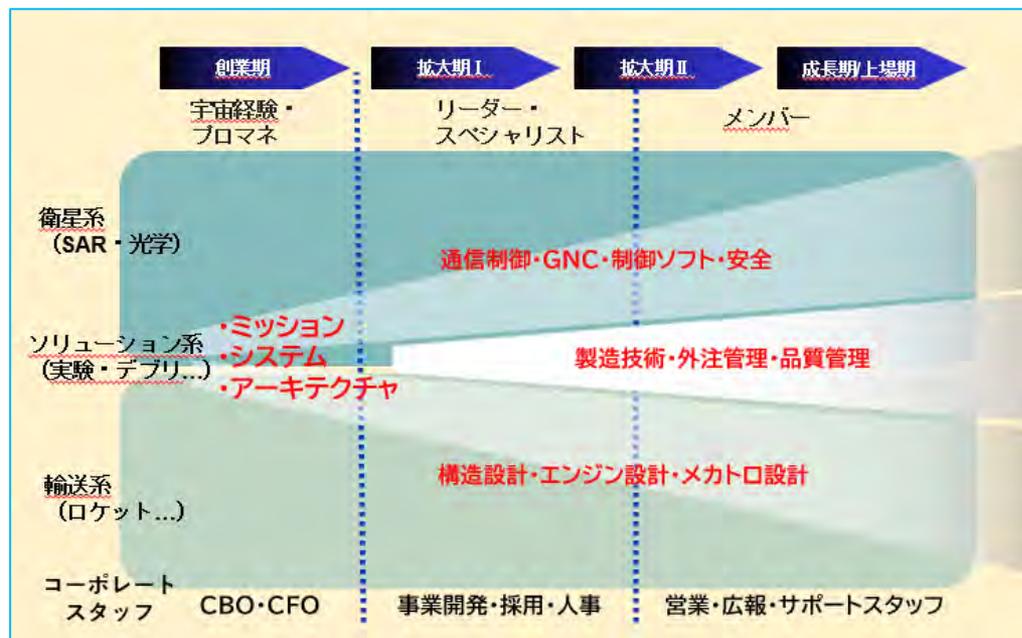
- ①必要スキルの可視化と採用ターゲットの精緻化 ②ミスマッチ防止と採用スピード向上 ③企業の成長に合わせたタイムリーな人材供給等

宇宙ベンチャーでは、

創業期：設計・解析
 拡大期：試験・評価
 成長期：製造・品質管理

と必要スキルが段階的に変化する。
 これを宇宙スキル標準と照合し、
 フェーズ別に必要スキルを整理。

その結果、半年～1年先に必要となる
 人材像を先読みし、候補者プールを事前に
 形成することで、タイムリーな採用成功率を
 高めている。



【事務局コメント】

宇宙スキル標準を基盤としてロールや採用要件を体系的に整理し候補者との認識差を解消することで、精度と即応性の高い採用を実現している点が大変すばらしいと感じます。こうした取り組みが広がり、人材流動性が高まり宇宙産業全体の人的基盤強化につながることを期待されます。

株式会社インバイトユー「宇宙人材エージェント」(2/3)



【事業フェーズ先読み × 採用ターゲット形成】

- どのように組み込んだか 活用プロセス（簡潔版）
 - 企業の事業フェーズをヒアリング
 - 宇宙スキル標準と照合し、フェーズ別の必要スキルを抽出
 - 半年～1年先の採用ターゲットを定義し、候補者プールを形成

■ 課題・難しさ

- 各ベンチャーで事業スピード感が異なり、継続的な情報収集と状況把握が必要
- 求職者の経験をスキル標準に正確に対応付けるための丁寧なヒアリングが必須

■ 工夫したポイント

- スキル標準の専門用語を求職者の一般的なスキル・業務に照らし合わせ理解
- 企業の技術ロードマップとスキル標準を重ねて先読みし、ターゲット求職者を集客
- 企業にて人材ニーズが顕在化した時点で、ターゲット求職者に即時紹介

■ 今後の展望

- フェーズ別採用モデルの標準化
- 宇宙人材データベースの精度向上
- 自社の教育・研修など視野に入れたスキル可視化

1. 事業フェーズの把握

2. 必要スキルの抽出
(スキル標準と照合)

3. 採用ターゲットの先読み

4. 求職者スキルの評価

5. 候補者プールの事前形成

株式会社インバイトユー「宇宙人材エージェント」(3/3)



【求人票「ロール」乱立 × 共通スキル⇒求人票「スキルパッケージ化】（宇宙スキル標準を利用し、今後、取り組みを進めたい）

■ 取り組みの概要

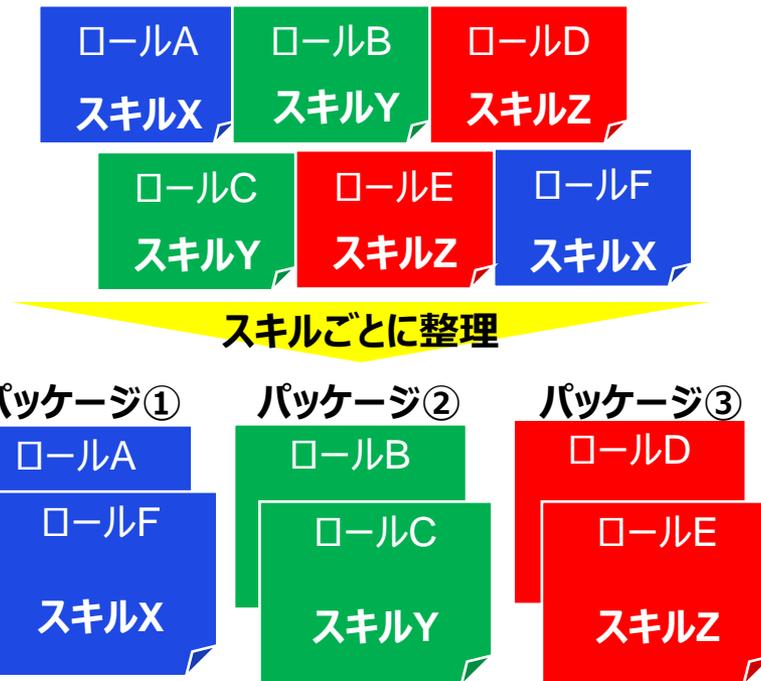
- 数百人規模で採用する大手企業では、求めるスキルが重複するロールが乱立
- 求職者が応募すべき求人を判断できず、応募漏れが発生
- 宇宙スキル標準でロールを整理し、スキルの共通性が高い求人をパッケージ化

■ 活用の取り組み内容

- 大手企業では、部署ごとに似たロールが複数存在し、求めるスキルが重複しているため、求職者が応募先を選びきれず、採用取りこぼしが発生している。
- 今後、宇宙スキル標準を基に求人票をスキル単位で整理し、スキル重複率の高いロールをまとめた“求人パッケージ”を作成することで、応募漏れを防ぎ、採用の網羅性を高める仕組みを構築する想定。

■ 宇宙スキル標準活用の目的・期待効果

- 求人票のスキル構造を標準化
- 求職者の応募漏れを防止
- 大量採用における採用効率の向上





国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) (1/1)

- JAXAは、日本の宇宙航空の研究開発を担う国立研究開発法人です。人工衛星の開発・運用、ロケットによる宇宙輸送システム、宇宙科学研究、航空技術の研究開発、国際宇宙探査など、基礎研究から開発・利用までを一貫して行い、安全で豊かな社会の実現を目指しています。
- JAXAは、国の中核的な研究開発機関としての役割のみならず、我が国として人的基盤の拡大・強化に資する役割も期待されています。このため、JAXAの採用HPから宇宙スキル標準の情報に誘導し、ひろく宇宙分野への人材参入を促す取り組みを推進します。



宇宙スキル標準／スキル一覧

業務分野	スキルID	業務名称	業務内容
プロジェクト推進・開発	1	宇宙プロジェクト推進	宇宙開発において、プロジェクト推進、開発プロジェクト推進の役割を担う。
	2	宇宙プロジェクト推進	宇宙開発プロジェクト推進、開発プロジェクト推進の役割を担う。
	3	宇宙プロジェクト推進	宇宙開発プロジェクト推進、開発プロジェクト推進の役割を担う。
プロジェクトマネジメント	4	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。
	5	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。
	6	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。
	7	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。
	8	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。
	9	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの役割を担う。

「宇宙分野におけるスキルはこちら」という形で
宇宙スキル標準とリンク

<https://www.jaxa.jp/about/employ/>

【事務局コメント】

採用サイトから宇宙スキル標準へ誘導する取組みは、求職者に必要スキルをわかりやすく提示し、宇宙分野への参入意欲を高める効果が期待されます。こうした情報発信の強化を通じて、宇宙産業全体の人的基盤が広がり、より多くの人材がこの分野に挑戦してくれることが期待されます。

株式会社ポテンシャライト/ソラシゴト (1/2)

- 人事支援・人材紹介事業を主軸とし、知見を活かした**宇宙分野特化型の採用支援「ソラシゴト」**を企画・運営。
- 宇宙スキル標準をWebコンテンツとして実装・可視化することで、候補者が業界特有の職種体系や自身の強みの活かし方を**直感的かつ体系的に理解できる環境を提供**。
- 宇宙業界への参画を志向する**潜在的な人材母集団の形成**、および**マッチング機会の最大化**を目指す。

宇宙特化の転職媒体を作り、宇宙業界の入り口とハブになることを目的として作成

宇宙スキル標準を活かした「ソラシゴト」機能拡張マップ

【Phase1:現状】基盤構築

スキル標準の実装と可視化

- ・直感的な職種検索/レベル判定
- ・AIによるスキル転用判断



【Phase2:今後】網羅性・機能強化

業界情報の網羅と マッチング精度の向上

- ・全企業/全求人情報の集約
- ・企業実態の可視化/ニュース配信



【Future:目指す姿】期待する効果

人材エコシステムの確立

- ・挑戦者母集団の最大化
- ・最適な人材流動による産業発展

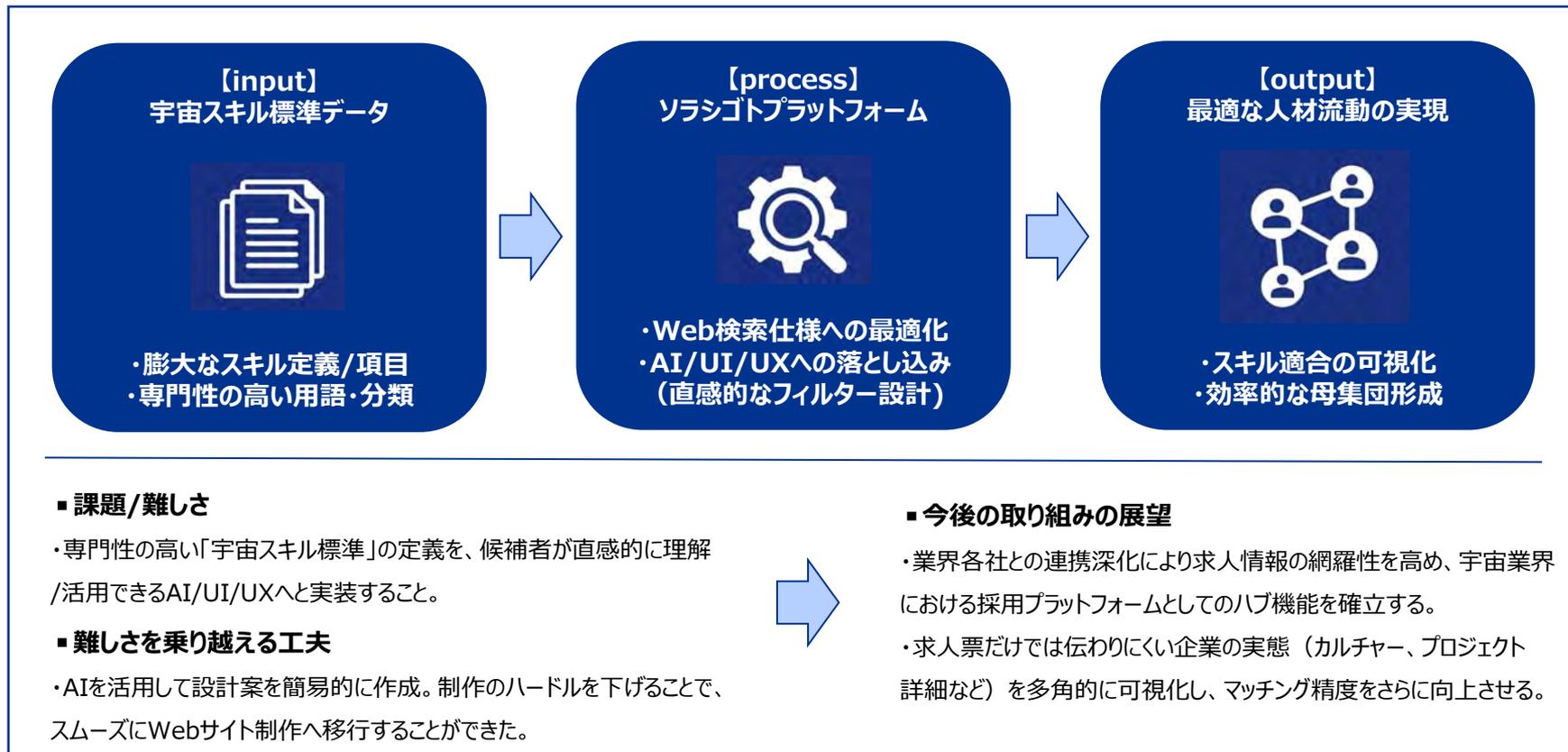


【事務局コメント】

宇宙スキル標準をWeb上で可視化し、候補者が自分の強みや職種との適合性を直感的に理解できる仕組みを整えた点は、宇宙分野への興味や応募意欲を高める素晴らしい取り組みです。こうした工夫を通じて、より多くの人々が宇宙業界の門を叩いてくれることが期待されます。

株式会社ポテンシャライト/ソラシゴト (2/2)

- 「宇宙スキル標準」のデータ定義をWeb上の検索仕様に**整合させる形で実装**し、AI/UI/UXを最適化。候補者が自身の職務適性に**合致する求人案件を効率的に発見できるプラットフォーム**として設計・企画。
- 今後は業界各社との連携を深め、宇宙業界の全求人**を網羅的に検索可能にする施策**を企画・実行。職種軸での検索において、**募集企業の実態を可視化**する機能を強化し、マッチング機会の最大化を図る。



2. 教育における活用事例

学校法人有坂中央学園/専門学校中央情報大学校 (1/2)

学校法人有坂中央学園 専門学校

CID 中央情報大学校

- 専門学校中央情報大学校（群馬県高崎市）は、「情報・デザイン・電気通信」の分野で専門的な知識と技術を身につけ未来のテクノロジー社会に貢献する人材を育成することを使命とし、社会で活躍できる“やって、みて、考える”人材育成を実践している。
- 文部科学省の委託事業（専修学校による地域産業中核的人材養成事業（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム））として、地方創生の観点から、地域の専門学校を中心に宇宙産業を担うスペーステック人材を育成する教育プログラムの開発に3ヶ年（2025年～）で取り組んでいる。
- 教育プログラム開発にあたり、「宇宙スキル標準」を教育内容の整合性と体系化の指針として活用し、スキル標準に示された「スキル一覧」や「ロールモデル」に基づき、育成目標に沿った科目群の選定やシラバスの開発を段階的に進めている。

『地方創生に資する宇宙スキル標準を活用したスペーステック人材育成教育プログラムの開発と検証』

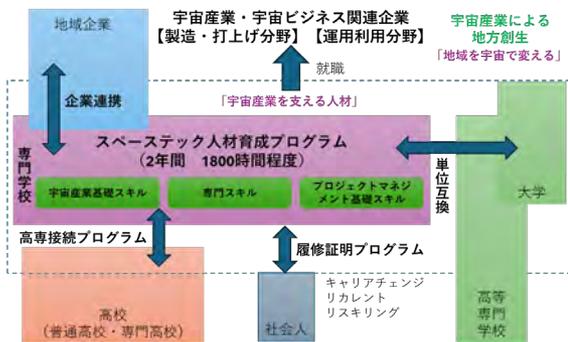
本事業は、地方創生の観点から、地域における新たな成長分野として注目される宇宙産業への挑戦と雇用創出の促進に貢献する専門学校が中核となるスペーステック人材育成プログラムを開発することを目的としている。

「宇宙スキル標準」を共通言語とした宇宙産業の多様な職種に対応する職業直結型の教育カリキュラムを開発することにより、専門学校がスペーステック人材育成の中核拠点となり、地域に新たなキャリアパスを創出することを目指している。

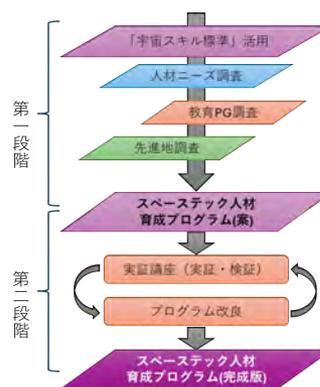
開発するカリキュラムの全体イメージ

専門学校が中心となった地域主導型の人材育成モデルを特色とする。

専門学校だけでなく地域の企業や高校、高等教育機関、地方自治体との産学官連携体制によるスペーステック人材育成を目指すプログラムを目指している。

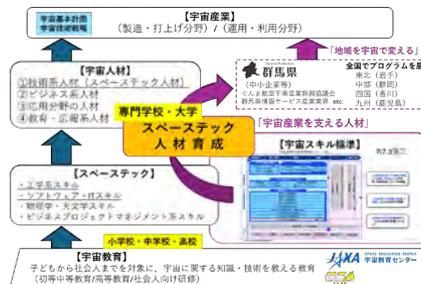


教育プログラムの開発プロセス



第1段階：
「宇宙スキル標準」を活用して人材ニーズ調査や教育プログラム調査などを実施し、調査結果を踏まえてプログラム案を開発

第2段階：
実証講座を通じてプログラムを完成版へと磨き上げる



【事務局コメント】

教育内容と宇宙スキル標準を照合し、学習成果を可視化する工夫が随所に見られます。産業と教育をつなぐ整理の枠組みとして期待されます。

学校法人有坂中央学園/専門学校中央情報大学校 (2/2) 学校法人 有坂中央学園 専門学校 **CID** 中央情報大学校

- 製造系企業への人材ニーズ調査を行うとともに、専門学校等が既に持つ既存の教育プログラムを収集し、宇宙スキル標準との差異（ギャップ）を抽出した上で活用可能なコンテンツを再整理した。
- スキル標準に示された「スキル一覧」に基づき、育成目標に沿った科目群の選定やシラバスの開発を継続的に実施する。
- 今後、教育プログラム内容を、学習者にとって宇宙産業人材像をイメージしやすい表現や提示方法に改良することにより、教育プログラムの普及を図っていく。

既存教育プログラム等の整理

教育リソースの抽出と適合性の検証を実施。

① シラバス・カリキュラムの広範な収集

既存教育が保有する知識体系を可視化

② 教育現場および企業への実地視察とスキル抽出

教育機関および関連企業への実地視察を実施

③ 産学連携による教育環境の確保（ヒアリング調査）

教育と雇用を直結させるため、企業へのヒアリング調査を実施



● 宇宙スキル標準との適合評価（星取表の作成）

スキルカテゴリ	#	スキル項目	学習体系	関連資格	教育機関A	教育機関B	教育機関C	教育機関D		
基礎技術	14	システムエンジニアリング	・ITストラテジスト試験 ・プロジェクトマネージャ試験	・データベース実務基礎 ・データベース実務1 ・データベース実務2	データベース実務 データベース実務 データベース実務 データベース実務	データベース実務 データベース実務 データベース実務 データベース実務	データベース実務 データベース実務 データベース実務 データベース実務	データベース実務 データベース実務 データベース実務 データベース実務		
	15	スキルカテゴリ	#	スキル項目	学習体系	関連資格	教育機関A	教育機関B	教育機関C	教育機関D
基礎技術	14	システムエンジニアリング		・基本情報技術者試験 / 応用情報技術者試験 ・システムアーキテクト試験 / ITストラテジスト試験 ・プロジェクトマネージャ試験						
	17	プログラミング	情報学基礎 / ソフトウェア	・ITストラテジスト試験 ・基本情報技術者試験 / 応用情報技術者試験						

収集したシラバスをスキル項目に紐付け

視覚的に分かりやすいよう記号で表記
（●：関連性高、○：関連性中、△：関連性低）

『スペーステック人材育成プログラム R7版』について

育成人材像「地方から宇宙産業を支える“実装基盤型スペーステック人材”

宇宙産業における設計・製造・品質・運用・データの基盤工程を横断的に理解し、現場実務を担う“実装基盤型スペーステック人材”。

研究開発人材でも、単純技能人材でもなく、高度化・複雑化する宇宙産業を現場から支える中核的実務層を、専修学校という実装教育の拠点から体系的に育成する。

● 宇宙スキル標準を取り入れたカリキュラム作成

カリキュラム作成にあたり、科目毎に「スキルカテゴリ」「スキル項目」「到達レベル」「ロール」など宇宙スキル標準との関連性を明示

年次	学期	科目名	単位	区分(代替科目)	科目概要	到達レベル (SSS)	該当資格	講義形態	スキルカテゴリ	スキル項目	代替科目名	ロール (大)
1	前	宇宙工学・宇宙産業概論	2	新設	宇宙産業構造・工程・職種の理解	Lv1	—	講義	プログラム概論・構成・管理技術	#1 調査・動向把握 / #3 システムデザイン・マネジメント / #4 システムエンジニアリング		全体統括層 / コーポレート・ビジネス層
1	前	宇宙スキル標準概論	1	新設	宇宙入門レベルの人材像の理解	Lv1	—	講義	プログラム概論・構成 / プロジェクトマネジメント	#2 計画策定 / #13 ステークホルダーマネジメント / #4 プロジェクト統合マネジメント		全体統括層
1	後	図面読解・製図基礎	3	既存 (CAD実習1)	図面の読解と製図基礎	Lv2	機械製図技能検定 (参考)	講義・演習	設計・解析	#21 構造設計・解析 / #22 機構設計・解析 / #27 機械設計・解析 / #28 インターフェース設計・解析	電気製造システム設計・解析 製造系システム設計・解析	製造系エンジニア 宇宙輸送機・人工衛星製造層

作成したカリキュラム表（一部抜粋）

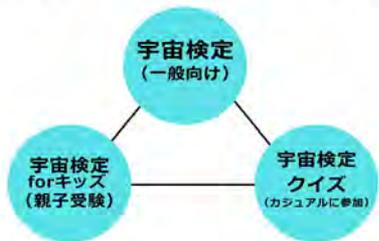
● 今年度の得られた課題（宇宙スキル標準の活用面について）

宇宙産業が求める人材像からカリキュラムを作成したが、学習者が具体的な将来の職業像をイメージすることがやや難しい。今後は、学習者に分かりやすい表現を用いるなどの改良することにより、教育プログラムの普及に繋がってきたい。

一般社団法人 宇宙産業機構 (1/2)

- 「気づくセミナー宇宙大学」の企画・運営を通じ、全世代への宇宙リテラシー普及を推進。
- 宇宙検定、宇宙検定forキッズ、宇宙検定クイズという3つの宇宙検定シリーズの企画・運営。
- 宇宙業界への敷居を下げ、宇宙人材の裾野を広げることを目的に、業界全体の知識水準を測る共通の物差し（ベーシックスキル）となることを目指す。

宇宙検定シリーズ



宇宙検定を通して、宇宙業界参入への敷居を下げる活動を展開

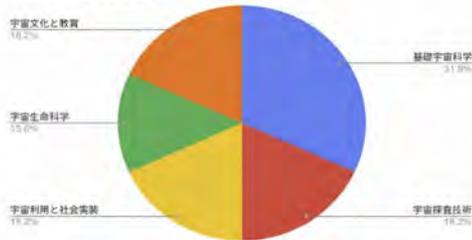
2025年2月:宇宙検定クイズ

2025年12月:宇宙検定forキッズ

2026年:宇宙検定

宇宙検定β版アンケート結果

出題してほしい内容



アンケートは、「10代、学生、男性」が圧倒的多数を占める結果となりました。この層の強い関心は、今後の宇宙人材育成における重要な指標となります（集計人数：238人）

宇宙スキル標準を基盤とし、業界全体で利用可能な「知識の評価・習得支援ツール」として機能することで、日本の宇宙産業が抱える人材不足の課題解決に貢献します

課題	アプローチ	アウトカム1:全国民への認知度向	アウトカム2:宇宙スキル標準
<ul style="list-style-type: none"> 策定が進む宇宙スキル標準を実効性ある指針とするには、個人の習熟度を測る具体的な評価手段と、学習や採用につなげる仕組みが不可欠である これらが欠ければ、参入障壁の解消にはつながらない 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙スキル標準についての設問を作成 専門知識を理解しやすい言葉に編集 3種類の宇宙検定シリーズにより幅広い世代が受験できる 企業が人材募集時に採用のベンチマークとする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生、ビジネスマンへの興味関心の枠を広げ、宇宙産業への敷居を下げる 宇宙を生活に密着した身近な存在として定着化 親世代(20~50代)に対するキャリア意識の喚起 小学生から宇宙について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙スキル標準が示す共通リテラシーを基に、宇宙分野の基礎理解を測る 共通の評価基準として、企業の採用試験などに活用されることを目指す

【事務局コメント】

宇宙検定を活用して学習から参入までの流れを丁寧に整備されており、スキル標準と結びつけた理解促進の取り組みとして広がり期待されます。

一般社団法人 宇宙産業機構 (2/2)

- 単なる知識の暗記に留めず、宇宙の仕組みがどう社会に役立ちどれほど身近なものかを宇宙スキル標準の指標を評価軸となるよう組み込みたい。
- 専門性を維持しつつ、各々が自分事として捉えることのできる難易度まで調整することが課題。
- 既存の宇宙業界のプレイヤーが活躍できるプラットフォームの提供。

宇宙スキル標準定着のため、「資格試験の創出」を具体的に実現し、検定の存在感を最大化するための4つの活用

宇宙産業の「人的基盤の強化」を実現する共通インフラとしての貢献

1. 「資格・検定」としての位置づけの確立

- 宇宙検定を、業界の「**共通の能力水準**」を客観的に示す**公的なベンチマーク**として機能させる。
- **宇宙スキル標準定着**の鍵となる資格試験の創出を実現。

2. 個人の自己研鑽の指針として活用

- 受験者は、学習と結果を通じて、自身が有している宇宙に関するスキルや知識を**客観的に確認**できるようになる。
- 点数で分ける合否判定や級位制ではなく、得点を提示する**スコア型**にすることで**知識のアップデート**を図ることが可能。

3. 教育プログラム組成への貢献

- 宇宙スキル標準に関連する**宇宙検定の問題を作成**。
- 宇宙スキル標準に基づく「**教育プログラムの創出**」という定着目標を支援し、実務的な**宇宙人材育成**を加速。

4. 企業の採用・評価の共通言語としての提供

- 宇宙スキル標準に準拠した業界知識の習得度を得点結果で可視化し、企業に提供して行きたい。
- 採用選考時に参照することで、応募者のスキルや宇宙関連知識の見極め、**採用活動の効率化**に貢献。

難しかったポイント

「宇宙検定」という名称で、宇宙産業への多様な関わり方を示せるコンテンツ設計に悩み議論を重ねた。



工夫したこと

- ✓ 作問者の専門分野を活かし、分野を絞らずに出題することで知識の偏りを排除
- ✓ 親子受験可能な「宇宙検定forキッズ」で、子供の興味喚起と20-50代のセカンドキャリア層の両方に対応
- ✓ スマホで気軽に挑戦できる「宇宙検定クイズ」でこれから興味関心を持つ層へもアプローチ

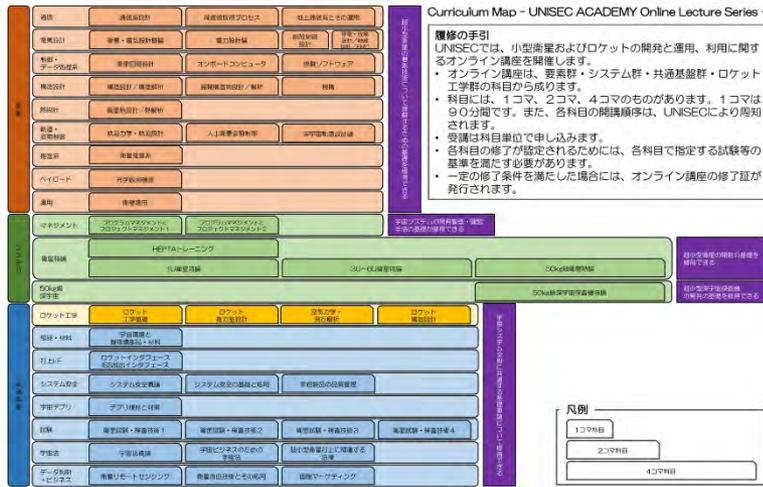
大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC) (1/2)



- 宇宙工学の分野で“実践的な”教育活動の実現を支援することを目的とする特定非営利活動法人（NPO）
- 提供する各種教育プログラムと宇宙スキル標準の関連性を明確化することによる効果的な講義群の活用の実現
- 各種講義の更新・発展の検討での活用，受講促進や受講成果を効率的に活用するためのガイドとしての利用，内外から適正な評価を受けることを可能とするためのエビデンスとしての活用

「UNISECアカデミー 実践宇宙工学講座」（日本語） および「KiboCube Academy」（英語）

- 超小型衛星の設計・製造・運用に必要な「基本的な知識の習得」と「実機開発上の問題解決への貢献」を主眼とするオンライン講座群を展開
- 大きく分けて1. 要素技術，2. システム実践技術，3. 汎用共通技術 の3分野に対する講義を実施
- 分野と講義の構成を説明するカリキュラムマップを提示
- 宇宙スキル標準との対応を明示することで，受講促進や受講成果の活用促進，内外から適正な評価を受けることを可能とするためのエビデンスとしての活用を期待



KiboCUBE Academy Webinars
-Theoretical & technical insights on how to develop, operate, & utilize a small satellite-

Live Session Webinars ▶ On-demand Pre-recorded Lectures ▶ On-Site events ▶

【事務局コメント】

講義内容と宇宙スキル標準を丁寧に対応づけることで、教育現場の理解促進と学習成果の可視化につなげている点が印象的です。体系的なスキル習得に向けた教育機関ならではの取り組みとして広がりが見込まれます。

大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC) (2/2)



- 既存の講義群と宇宙スキル標準の具体的な対応を明示予定
- 座学講義に点在する項目と宇宙スキル標準に対する対応付け、講義内容のレベル感などについては更新精査中
- 講義群の発展整理などに対する指針として宇宙スキル標準が有効活用できる可能性

講義群と宇宙スキル標準の対応づけの一例

講義目次

1. Introduction to Lecturers
 1. Overview of satellite development
 2. Scope of this lecture
 3. Related lectures
2. System integration
 1. Overview of system integration
 2. Electrical interface test
 3. Table sat / Functional test
 4. End-to-End test
3. Importance of software development and verification
 1. Software development
 2. Software verification
4. Case study
5. Conclusion

対応する標準の整理

- システムズエンジニアリング
 - モデルベース開発
- 機械的インタフェース設計・解析
- 電氣的インタフェース設計・解析
- アッセンブリ
 - 機能性能試験
 - EMC試験 衛星管制オペレーション
 - 熱試験
- ソフトウェアエンジニアリング

■ 難しかったポイント

- (宇宙スキル標準制定以前に構築したカリキュラムであるため) 1つの講義に複数のスキル標準に対応する項目が含まれている
- 講義毎に粒度とレベル感が違うため、カリキュラムマップレイヤーでの対応づけが困難で、個別対応関係の明示を要する
- 座学の効果としてスキル標準項目にどこまで対応可能かの判断が難しい

■ 工夫したポイント

- 講義資料記載項目の確認、担当講師への確認なども実施しながら対応関係を整理 (今後も継続)

福島県商工労働部産業人材育成課 (1/2)



- 内閣府「宇宙スキル標準」を活用した地域産業人材育成モデルの構築により、県全体の航空宇宙分野の担い手育成と新産業への参入を目指す企業の人材育成に寄与する。
- 企業ニーズにも対応し、在職者に対して、技能者育成プログラムを活用した航空宇宙関連産業で必要とされる技術付与のためのセミナーを開催する。

地域産業の現状

- 南相馬市を中心に宇宙関連企業が6社以上集積（2022～2025）
- 福島イノベーション・コースト構想の重点分野の一つ

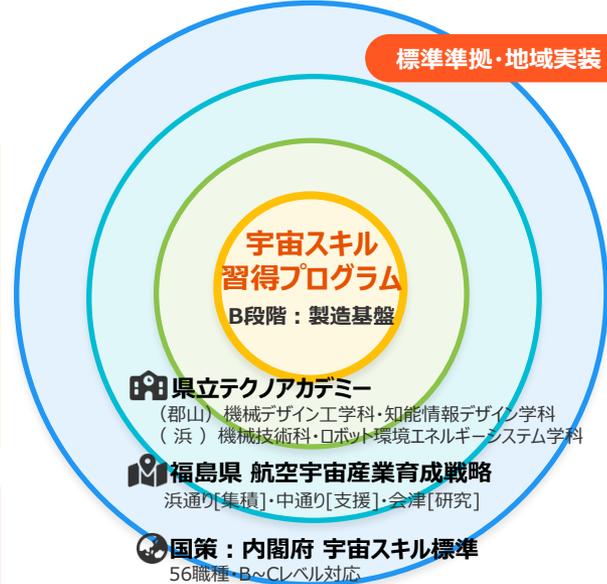
人材育成の課題

- 製造現場で即戦力となる「考えて製作される技能者」の不足
- 体系的な技能教育プログラムと標準教材の不在
- 企業内OJTの限界、教育と産業現場の乖離

国策との接続

- 内閣府「宇宙スキル標準」（2024年度策定）
- 56職種の技能定義の地域実装が急務

プログラムの位置づけと全体像



A～D段階型プログラム

- 令和7年度 B段階（製造技能者）実務基礎技能
- 対象：学生・新入社員 / 重点：スキル+マインド
- 令和8年度以降 C段階（検査員） / D段階（指導者）

理論×実践の融合教育

- 内閣府標準 製造・加工（製造基本技能）より抽出（ねじ・接着等8項目）実装
- ラジオキット統合実践課題 / 意図的失敗の組込
- Know～Why（なぜそうするか）の重視

産学官連携体制

- 県立テクノアカデミー郡山・浜（実施主体）
- 地域宇宙企業6社以上（実践協力）
- 有識者委員会による検証・改善

認証・普及体制

- バッジ・認証システム整備
- 全国展開モデルとしての標準化

福島イノベーション・コースト構想の推進と人材育成拠点モデルの形成

「考えて作れる」技能者育成を中心とした4層構造のエコシステム

【事務局コメント】

地域の育成モデルに宇宙スキル標準を丁寧に組み込み、人材育成の道筋を分かりやすく提示されている点が印象的です。多主体連携による人材育成が広がっていくことが期待されます。

プログラム構成と宇宙スキル標準の活用

A~D階層構造とB段階詳細・期待される効果

A~D段階の階層構造

★ A段階

原体験・興味喚起
対象：小～高校生
重点：マインド育成
サイエンス教室等

✂ B段階

★ R7年度開発

基礎技能習得
対象：学生・新入社員
重点：スキル+マインド
期間：1~2時間(概論)

🔍 C段階

次年度以降

検査業務
対象：基盤整備者
重点：品質保証

👤 D段階

次年度以降

指導者育成
対象：熟練者
重点：教育力

B段階プログラム構成 (製造基盤技能)

① 共通概論

1~2h

宇宙産業の全体像・リスク思考
品質思考・要求分解
Responsibility / Accountability
重要マインド導入

④ 統合実践課題

🔧 ラジオキット製作

複数技能の統合的活用

意図的失敗の組込み

⑤ 振り返り・認証

マインド内省 → バッジ付与

② 要素技能モジュール (8項目)

- ◎ はんだ付け作業
- ◎ ハーネス組付け作業
- ◎ 接着作業
- ◎ インサート処理作業
- ◎ ネジ締付け作業
- ◎ ネジ固着作業
- ◎ かしめ作業
- ◎ 電子部品静電気防止

○内閣府標準 製造・加工 (製造基本技能) より抽出

③ 3つのグループ化

ねじ系
締結・トルク

接着系
接着・前処理

電気系
はんだ・ESD

宇宙スキル標準との対応

内閣府 宇宙スキル標準 (2024)

- 56職種の技能定義 / 人材育成基盤
- B~Cレベル技能の明確化



福島県 技能習得プログラム開発

- 8つの要素技能を体系化 / 理論×実践
- 意図的失敗組込み型学習



県立テクノアカデミー郡山・浜での訓練

- 実機・実題材ベース / 企業との連携
- 学生による実証・検証

取組の成果と期待効果

令和7年度の成果

プログラムB段階の完成 (2026年3月)
学生実証・企業連携体制の構築

👤 学習者

バッジ可視化
現場技能習得

🏭 地域企業

即戦力確保
コスト削減

★ 地域全体

「宇宙のモノづくりなら福島」

令和8年度以降の展開

C・D段階開発、全国展開に向けた標準化、内閣府連携によるモデル普及

文部科学省 宇宙航空科学技術推進委託費 (1/1)

- 宇宙航空科学技術推進委託費では、宇宙航空分野における新たな可能性の開拓や裾野拡大を目的に、宇宙航空利用を新たな分野で進めるにあたって端緒となる技術的課題にチャレンジする研究開発、宇宙航空開発利用の発展を支える人材育成等の取組を推進しています。

令和8年度宇宙航空科学技術推進委託費の公募要領において、宇宙分野の人材育成事業には、宇宙スキル標準との連携を推奨する取り組みとして記載しています。

以下、公募要領抜粋

ウ) 実施要件等

(中略)

以下は要件ではありませんが、取り組むことを推奨します。

- ・ 育成する人材像に必要なスキル等と宇宙スキル標準 (<https://www8.cao.go.jp/space/skill/kaisai.html>)を連携させること。

【事務局コメント】

公募要領にスキル標準との連携が明記され、教育・人材育成事業における活用の方向性が整理されている点が印象的です。産学官での共通理解の形成に向けた基盤が整いつつあります。

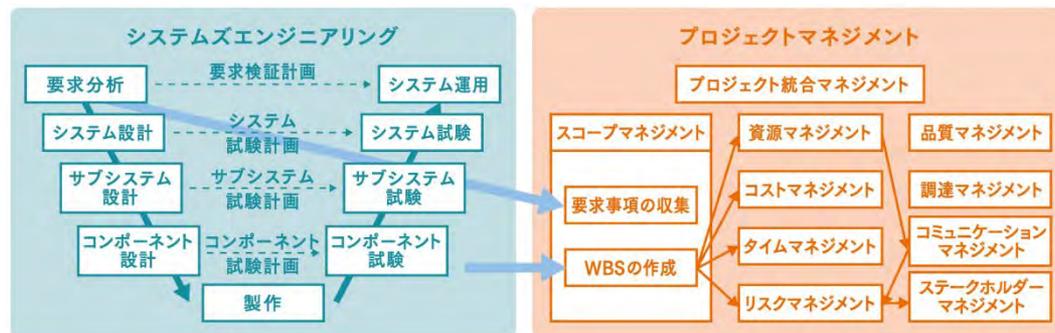
株式会社レヴィ (1/2)

- 宇宙・航空分野をはじめとする複雑システムの開発に対し、SEと構造化思考を軸とした人材育成・実践支援を提供。宇宙輸送、衛星、半導体製造装置、自動車車載機器、無人航空機など多領域のプロジェクトにおいて、SE/PM支援実績を有する。
- 「宇宙スキル標準」で課題とされるSE/PMスキル領域に対応したSE/PM入門研修（2日間）を提供。
- 宇宙スキル標準を活用すること、本研修の位置づけを明確化し、年間100名程度のSE/PM人材の育成を目指す。

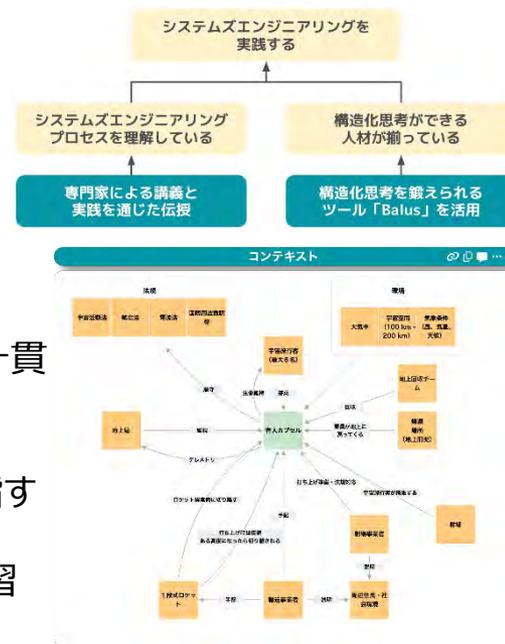
プロジェクトを軌道に乗せるSE/PM研修

宇宙事業者を対象に、「宇宙スキル標準」の中でも特に人材不足が顕著である

システムズエンジニアリング (SE) と プロジェクトマネジメント (PM) のスキル領域に対応した入門研修



- ◆ 要求設定からWBS（作業分解図）作成（SEとPMの連携）までを一貫して体験
- ◆ 若手～中堅の技術者が**宇宙システム開発の全体像**を理解すること
チームで合意形成しながら設計・計画を進められる状態になることを目指す
- ◆ 独自の**モデリングツール「Balus」**を活用
- ◆ 宇宙開発プロジェクトの実例を用いた講義とBalusを用いたモデリング演習
- ◆ すぐに**実践できる勘所**を伝授



演習で作成するモデルの例

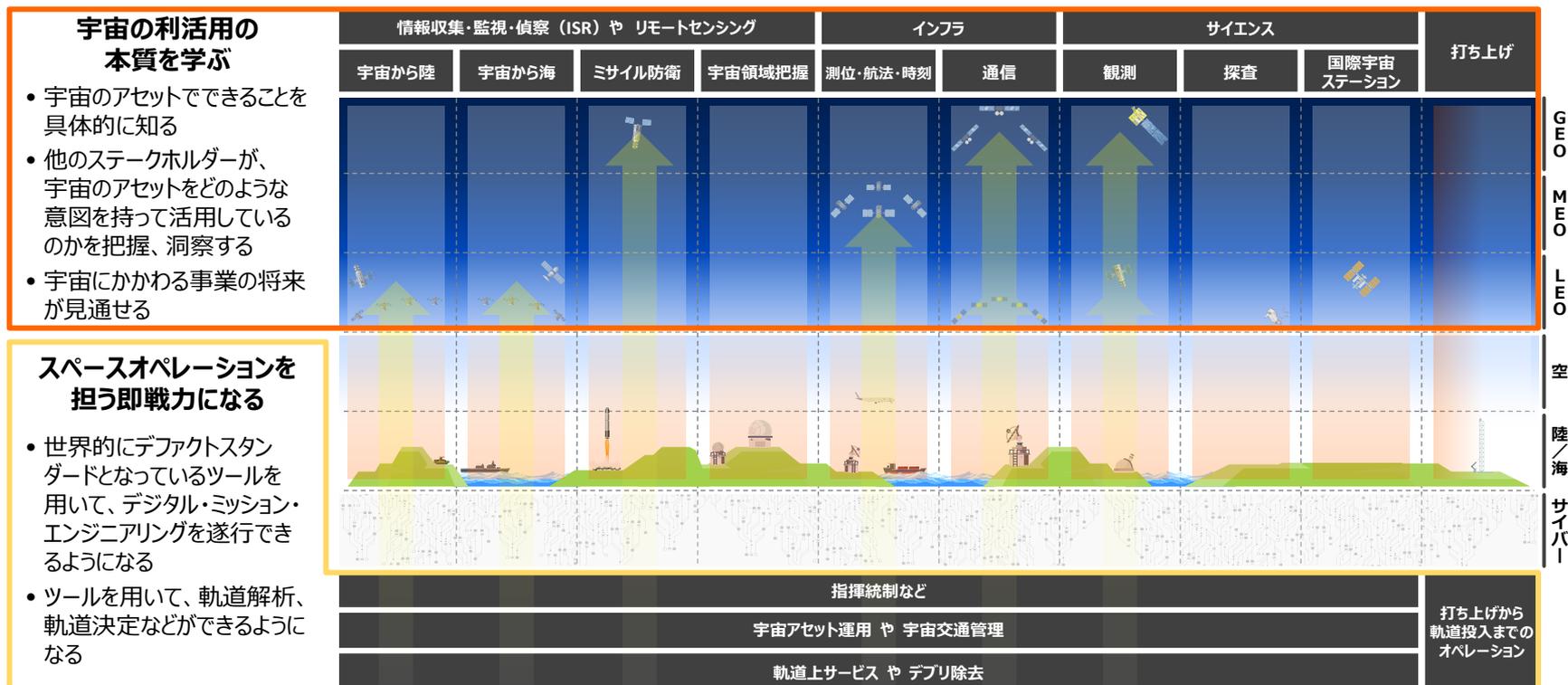
【事務局コメント】

宇宙スキル標準を研修の中で具体的な活動に紐づけ、学習者が成長を実感しやすい設計がされています。実践力につながる学びの場として広がりが期待されます。

LSAS Tec 株式会社 (1/2)

- 世界的にデファクトスタンダードとなっている航空宇宙のツールを長年販売・提供してきており、自社での航空宇宙ソリューションの開発も進めている企業として、お客様の新たな宇宙ミッションの実現を支援しております。
- お客様の新たな宇宙ミッションの実現を支援するにあたり、ツールやソリューションの提供のみならず、お客様が必要とされる専門知識が獲得できるトレーニングも提供しております。
- 宇宙スキル標準をひとつの羅針盤として、トレーニングの開発においても、トレーニングをお客様に訴求する際にも、活用しております。

宇宙スキル標準をひとつの羅針盤として、宇宙にかかわるあらゆるお仕事に不可欠となるトレーニングを体系化、充実化、高度化



【事務局コメント】

トレーニングを宇宙スキル標準と対応づけて整理し、学習内容の見通しが立てやすい構成にされている点が特徴的です。現場のニーズに応じた学習環境づくりが着実に進んでいます。

LSAS Tec 株式会社 (2/2)

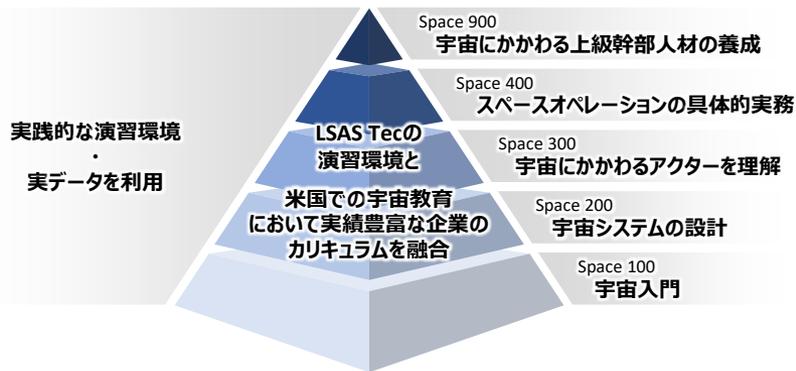
- 宇宙スキル標準の業務一覧を参考にし、これまでご提供してきたトレーニングを再整理するとともに、さらにご提供していくことが期待される分野を把握し、トレーニング開発を進めております。
- 暗黙のうちに専門家の中で共有されてきた前提、業界特有の専門用語によるコミュニケーションが、新たに宇宙分野へ参入しようとする方々にとって高い参入障壁となってきましたが、宇宙スキル標準がそうした障壁を乗り越える一助となっております。

宇宙スキル標準の浸透により、各種トレーニングが普及し、宇宙人材が増え、宇宙からの恩恵をさらに享受できる社会を実現

宇宙スキル標準



宇宙の利活用の本質を学ぶトレーニング



スペースオペレーションを担う即戦力になるためのトレーニング



Space BD株式会社 (1/2)

- 宇宙産業内の“隙間”を埋める「よろずや」として、宇宙を活用した官民の事業化支援・事業変革、教育分野などに事業を展開
- 教育事業ユニットでは、宇宙産業の即戦力を養成する人材育成プログラム「HURDLES（ハードルズ）」を開発、提供する
- 能力開発スキルの客観的な指標として宇宙スキル標準を活用しているほか、将来的には能力の“証明”や“認証”として採用プロセスとの接続を図りたい

衛星開発 即戦力養成プログラム 「HURDLES」について

趙孟佑教授（千葉工業大学、九州工業大学所属）、ArkEdge Space
協力のもと開発した、CubeSatを基軸とする実践型衛星開発教育プログラム。

1講座から受講できるオンデマンドや数日にかけて実施するワークショップ、
3週間にわたる長期トレーニングのハンズオンと多様なカリキュラムを展開。

「宇宙スキル標準*」に準拠した学びは、リスクリングや社内研修、
プロジェクト運営、インターンシップと、多様なニーズにお応えします。

* 内閣府発行「宇宙スキル標準」におけるレベル1に相当



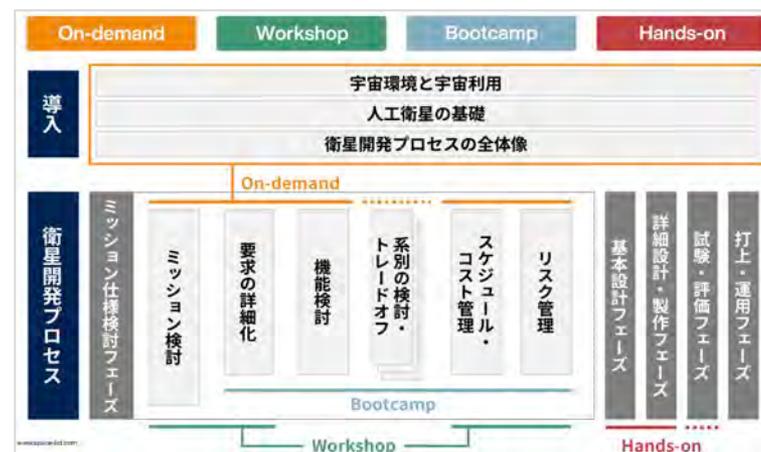
【事務局コメント】

宇宙スキル標準を基軸に育成プログラムを体系化し、能力育成の流れをわかりやすく整理されている点が目を引きます。
学習者の理解を支える仕組みづくりとして内容が深化しています。

● HURDLESのターゲットニーズ

- 衛星関連事業者の研修アウトソースとして
- 非宇宙産業事業者の研修として
- 自治体の産業振興・人材育成支援として
- 就職・転職のリスクリングとして

● プログラム概要 2026年2月から順次リリース予定



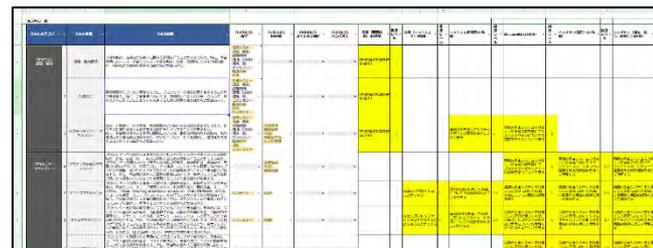
Space BD株式会社 (2/2)

- HURDLESは、宇宙スキル標準レベル1相当に準拠するプログラムとして定義し、スキル項目やスキルレベルを参照し学習内容を開発
- 宇宙スキル標準を活用する上で、スキルの蓋然性と納得度を正しく醸成できるかが課題
- 一社単独で完結するのではなく、国内外・産学等で散見する人材開発プログラムを宇宙スキル標準という客観的指標で繋ぎ合わせ、ユーザーにとってより体系的な価値あるソリューションづくりを目指す

● 開発プロセスイメージ：

- 宇宙スキル標準を参考に、各研修メニューの目的並びに獲得させたいスキル（スキルとスキルレベル）を設計
- PoCを実施、アンケートで設定したスキルとスキルレベルを客観評価
- 本番サービスの開発
- （予定）評価や修了証明等のスキームを、宇宙スキル標準に紐づけて設定

宇宙スキル標準を各研修メニューに対してレベル別にマッピング



● シナジー創出事例 「ベニバナ・サット」プロジェクト支援業務（山形県）

超小型人工衛星の開発・製造・運用プロジェクトでは、二つのユニットが連携し、持続可能な宇宙産業の土壌づくりに取り組む

1. ローンチサービス事業ユニットが提供：
衛星開発および審査プロセスの実践支援
2. 教育事業ユニットが提供：
「HURDLES」による宇宙産業人材の育成



3. 人事・配置における活用事例

スカパーJSAT株式会社 (1/1)

スカパーJSATは、宇宙事業とメディア事業を二本柱とし、国内外で衛星通信サービスや放送サービスを展開しています。宇宙事業では、衛星通信インフラを活用した多様な通信サービスや宇宙関連ソリューションを提供し、社会や産業の発展に貢献しています。

【スキル標準化プロジェクトの背景と目的】

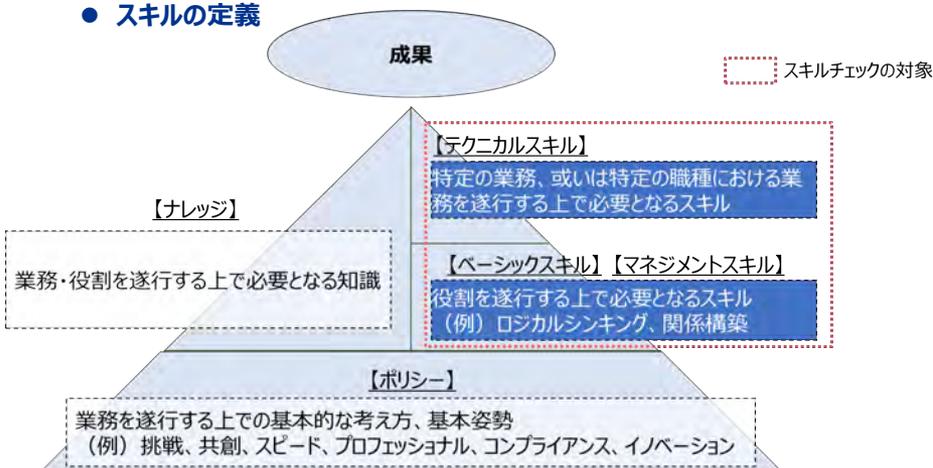
急速に変化する事業環境に対応し、全社的な人材力強化を目指して、2022年度よりスキルの可視化・標準化プロジェクトを開始。全社共通のベーシックスキル・マネジメントスキルに加え、事業戦略に即したテクニカルスキルの明確化を推進しています。宇宙事業では、専門性の高い人材確保と全員戦力化を目指し、宇宙スキル標準を参考にスキル体系の精度向上に取り組んでいます。

●構築step

- 2022年度 (トライアル・検証) 主要部署で業務フロー・必要スキルを可視化し、スキルマップ・チェックシートを試作
- 2023年度 (全社展開) 全48部署でアンケート・ヒアリングを実施し、部署ごとのスキルマップを作成
- 2024年度 (システム実装・運用開始) タレントマネジメントシステムを活用し、全社員によるスキルチェック・フィードバックを実施
- 2025年度以降 (能力開発・人材ポートフォリオ活用) スキルデータを活用した個別能力開発や人材ポートフォリオ設計を推進

宇宙スキル標準を参考に、スキルの抜け漏れを確認

●スキルの定義



●スキルカテゴリー一覧

大分類	ベーシック (22)	マネジメント (18)	テクニカル (82)
中分類	思考 (5)	理念策定 (2)	営業・マーケティング・PR (20)
	対人 (6)	戦略立案 (3)	技術・システム設計 (26)
	業務遂行 (7)	組織設計 (1)	経営戦略・企画 (19)
	問題解決 (4)	人材育成 (2)	財務・アカウンティング (3)
		部下指導 (4)	事業開発 (9)
			コンテンツ編成 (5)

全員に必要なスキル 管理職に必要なスキル 職種・部署毎で求めるスキル

●成果と今後の展望

- ①スキル標準化により社員一人ひとりの強みや成長領域を可視化
- ②宇宙分野の専門性強化と、事業戦略に連動した人材育成を加速
- ③宇宙スキル標準を活用して、当社に必要とされるスキル項目を選別するとともに、今後の事業展開に応じて項目の見直し・精緻化

【事務局コメント】

全社的なスキルの可視化と標準化を段階的に進め、専門性の整理と育成体系の整備を丁寧に進行されている点が特徴的です。